



Vol.13

ブレイクタイムズ

Break Time

第 13 回家族会

3月22日土曜日に、家族会を始めてまる2年となる第13回目の家族会を開催しました。苦い思い出のある連休中にもかかわらず、参加者はご家族及び患者さんが12名、スタッフが6名の計18名が参加してくださいました。今回の内容は、わたしが訪問リハビリで関わっている利用者さんの在宅生活の様子を、写真とご本人の言葉を交えて紹介するものでした。利用者さんの様子やご本人の言葉は参加者の皆さんの心に届いたようで、熱心にわたしの話に耳を傾けてくださいました。

利用者さんの言葉の中に、「美容院にいきたい」という言葉がありました。利用者さんは女性なのですが、定期受診に行く際には、美容院を予約して、キレイに身なりを整えてから受診に行くそうです。その言葉は女性として、キレイでいたい…いや、人として他者と接するときには身だしなみは整えたい…という気持ちの表れだと思います。その言葉を聞いていた参加者の方が、『わたしも母からその言葉を聞いたことがあるけれど、帰る頃には忘れてしまって…』とおっしゃっていました。『いま考えれば、当たり前のことなのに、そういう当たり前のことを、何と無く忘れてしまっていた気がします…』とも。

今回の講演は、介護される側の言葉を中心に進んでいきました。また、参加者の方々の中には、同じような言葉を受けた経験のある方が多くいらっしゃいました。お互いに忙しく、キモチに余裕がないときは、言葉も気持ちも通じ合わないものです…でも、相手の言葉に耳を傾け、その言葉の意味を考えることで、相手を理解することにつながり、通じ合えることになるのではないのでしょうか…

今回は、参加者の皆さんからお褒めの言葉をたくさんいただきました。利用者さんの言葉を引き出せたこと…その言葉の意味を考えたことについてです。あるご家族からこんな言葉をいただきました。『今回のお話を聞いて、リハビリだけでなく、介護なども人と人との関わりが大事で、相手にいかに思いやりをもって接するかが大切だということがわかりました。それが相手の本音を引き出すうえで大事なんだと…』わたしは理学療法士ですが、リハビリの成果は人と人の融合が左右すると考えています…機能面だけを追うのではなく、心理面に対しても関わっていくことの重要性を感じていますが、まさにその方のおっしゃる通りだと思います。

今回の家族会は、大成功に終わりましたが、それもひとえに協力してくださった利用者さんのおかげだと思っています。ご病気のことを聞かれることは、決していい気持ちはしないだろうことはわかっていますが、それでもイヤな顔せず、「参加してくれる方々のために…」とお話してくださった利用者さんに感謝です。本当にありがとうございました。次回の訪問の際には、皆さんの声を届けたいと思います。次回からは、3年目に突入します！

今後は院内だけでなく、地域でも家族会の活動を行っていきたいと思います。これからも応援よろしくお願いします。